

# 委託事業実施内容報告書

## 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 NPO 法人 多文化共生教育ネットワークかながわ

#### 1. 事業名称

定住する外国につながる若者への日本語教育支援事業

#### 2. 事業の目的

神奈川県北部地域（相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市）において、学校、大学、外国人支援組織との協働連携により、定住する外国につながる若者（中学生、高校生）を対象とした日本語教育支援事業を行い、高校卒業後の進路選択や社会参加につながる支援を行う。

#### 3. 事業内容の概要

相模女子大学との連携において、相模女子大学の構内の多文化学習活動センター（CEMLA）を拠点として、日本語教室を週1回（土曜日）に開催する。地域の中学校や高校との連携で、外国につながる中学生や高校生を対象とする。また、日本語指導者の人材育成として相模女子大学や桜美林大学などの地域の大学の学生を中心としたボランティア対象の研修会を行う。さらに関係者を中心に教材作成を行い、本事業の日本語教室を中心に活用していく。

#### 4. 運営委員会の開催について

##### 【概要】

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 運営委員会報告						
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年9月14日 15:00～16:30	1:30	相模女子大学	佐々木 倫子 太田 陽子 西山 日佐子 片 英治 角田 淳 鈴木陽子 高橋徹 高橋清樹 梅田玲子 金愛蓮 吉川泰雄	I. CEMLAルームにおける利用状況報告及び情報交換 II. 文化庁委託「生活者としての外国人」日本語教育事業 III. 学習にかかる情報交換 IV. その他 JSL生徒の公開授業について	1. 教育相談や日本語教室の運営状況を報告。 2. 中級向けの日本教材の作成にあたって、実際に学習者に教室で実践していることなども報告 3. CEMLA教室通う生徒の在籍する各高校での進路状況などを情報交換した。 4. 相模原青陵高校で行うJSL生徒の公開授業についての報告があり、開催方法などを協議した。
2	平成25年1月15日 15:00～16:30	1:30	相模女子大学	佐々木 倫子 太田 陽子 西山 日佐子 家田 章子 片 英治 角田 淳 鈴木陽子 高橋徹 西川宮貴子 高橋清樹 金愛蓮 吉川泰雄	I. 今年度の活動報告 2. 来年度のに向けて	1. 今年度のCEMLAでの活動をスライドで報告し、協議した。また、日本語研修の状況や日本語教材を見ながら改善点なども話し合った。 2. 来年度の事業に関して、継続する方向でよいか、協議した。



## 5. 日本語教室の設置・運営

### (1) 講座名称

定住する外国につながる若者(中学生・高校生)のための日本語教室(相模大野教室)

### (2) 目的・目標

県内北部地域には広く定住する外国につながる若者(中学生・高校生)が住み、地域の学校に通っているが、中学では小数散在しており、また高校ではドロップアウトしたり、進路が決まらない者も多い。高校卒業後の進路選択や社会参加を見据えた初中級から上級に至る日本語教育の場や支援の拠点づくりを目的とする。

### (3) 対象者

神奈川県北部地域(相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市など)に定住する外国につながる若者(中学生、高校生)で、来日間もない者や日本語指導が必要な者。

### (4) 開催時間数(回数) 56 時間 (全 28 回)

### (5) 使用した教材・リソース

### (6) 受講者の総数 48 人

(出身・国籍別内訳 中国 13人, フィリピン 6人, ベトナム 10人, アメリカ 5人, 台湾 2人、ロシア 2人、ドミニカ 2人、ブラジル 2人、パキスタン 1人、アルゼンチン 1人、ペルー 3人、ラオス 1人。

### (7) 受講者の募集方法

①県教育委員会及び各市教育委員会との連携により、教育委員会や中学校・高校にチラシ等を配布し、広報を依頼している。

②地域の国際交流組織にチラシ等を配布し、広報を依頼している。

### (8) 日本語教室の具体的内容

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育実践プログラム取組内容

事業名称：定住する外国につながる若者への日本語教育支援事業

団体名：多文化共生教育ネットワークかながわ

取組名：①日本語教室の設置・運営「定住する外国につながる若者（中学生・高校生）のための日本語教室（相模大野教室）」

実施期間：平成24年6月30日～平成25年3月9日

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年6月30日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	20	中国(7)、フィリピン(3)、ベトナム(5) ドミニカ(2)、アメリカ(1) 台湾(1)、ロシア(1)	基礎日本語力1 コミュニケーション力1	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…寝る前「くーそー すやすや	1名	安達理子	2名	中村美香 妹背真理子	
2	平成24年7月7日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	27	中国(9)、フィリピン(3)、ベトナム(8) ペルー(1)、ドミニカ(2)、アメリカ(2) 台湾(2)	季節を知ろう(七夕)	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…七夕の語(紙芝居)と鑑賞	1名	安達理子	1名	中村美香	
3	平成24年7月14日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	32	中国(8)、フィリピン(4)、ベトナム(10) ペルー(1)、ドミニカ(2)、アメリカ(4) 台湾(2)	基礎日本語力2 コミュニケーション力2	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…歩き方 よちよち すすた。よろよろ	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
4	平成24年7月21日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	26	中国(7)、フィリピン(4)、ベトナム(5) ペルー(1)、ドミニカ(2)、アメリカ(5) 台湾(1)、アルゼンチン(1)	基礎日本語力3 コミュニケーション力3	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 交流ゲーム…本のつく漢字を調べよう	1名	安達理子	2名	中村美香 妹背真理子	
5	平成24年8月29日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	7	中国(2)、ベトナム(3) ペルー(1)、アルゼンチン(1)	基礎日本語力4 コミュニケーション力4	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…風の音「ひびひびー すーすー (参加者の顔と比較)	1名	安達理子 佐屋麻利子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
6	平成24年8月30日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	10	中国(3)、ベトナム(3)、ペルー(2) アルゼンチン(1)、台湾(1)	基礎日本語力5 コミュニケーション力5	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…割れる音「ぱりーん がちやん	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
7	平成24年8月31日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	11	中国(3)、ベトナム(3) ペルー(1)、ドミニカ(2)、アメリカ(1) アルゼンチン(1)、台湾(1)	基礎日本語力6 コミュニケーション力6	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…たたく音「どんどん こんこん ばんばん	2名	安達理子 高日哲	1名	妹背真理子	
8	平成24年9月1日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	21	中国(6)、フィリピン(1)、ベトナム(6) ペルー(1)、アメリカ(3) アルゼンチン(1)、台湾(1) ロシア(2)	基礎日本語力7 コミュニケーション力7	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…空飛ぶ「はこべこ (寝が)からから	1名	安達理子	2名	中村美香 妹背真理子	
9	平成24年9月15日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	19	中国(8)、フィリピン(2)、ベトナム(5) ペルー(2)、アルゼンチン(1)、台湾(1)	基礎日本語力8 コミュニケーション力8	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…人 顔が「優しい 面白い	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
10	平成24年9月29日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	17	中国(8)、フィリピン(1)、ベトナム(3) ペルー(2)、アルゼンチン(1)、台湾(1) ブラジル(1)	基礎日本語力9 コミュニケーション力9	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…人 声「冷たい 厳しい	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
11	平成24年10月6日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	12	中国(5)、フィリピン(1)、ベトナム(2) ペルー(1)、アルゼンチン(1)、台湾(1) ブラジル(1)	基礎日本語力10 コミュニケーション力10	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…高級「美しい 冷たい」 面白い 嬉しい 涼しい	2名	安達理子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
12	平成24年10月13日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	23	中国(9)、フィリピン(2)、ベトナム(3) ペルー(2)、ドミニカ(2)、アメリカ(1) 台湾(1)、ロシア(2)、ブラジル(2)	基礎日本語力11 コミュニケーション力11	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…紙「べりべり」(ひひひ) ぐちゃぐちゃ	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
13	平成24年10月20日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	17	中国(9)、ベトナム(4) ペルー(1)、アルゼンチン(1)、台湾(1) ロシア(1)	基礎日本語力12 コミュニケーション力12	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…もの数え方 一匹 一頭 一羽	1名	安達理子	2名	中村美香 妹背真理子	
14	平成24年10月27日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	18	中国(7)、フィリピン(1)、ベトナム(2) ペルー(2)、ドミニカ(2)、アメリカ(1) ロシア(2)、パキスタン(1)	基礎日本語力13 コミュニケーション力13	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…心算「ほくほく だきだき	2名	安達理子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
15	平成24年11月10日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	16	中国(8)、フィリピン(2)、ベトナム(4) ペルー(1)、アルゼンチン(1)、台湾(1) ブラジル(1)、パキスタン(1)	基礎日本語力14 コミュニケーション力14	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…もの数え方2 一冊 一粒 一冊	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
16	平成24年11月17日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	24	中国(13)、ベトナム(3)、ペルー(3) ドミニカ(2)、アメリカ(2)	進路を考えよう	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 ◎大学生の先輩から話を聞いて、進路を考えよう	1名	安達理子	1名	中村美香	
17	平成24年11月24日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	23	中国(7)、フィリピン(3)、ベトナム(3) ペルー(3)、ドミニカ(2)、アメリカ(1) アルゼンチン(1)、台湾(1)、ロシア(1) パキスタン(1)	基礎日本語力15 コミュニケーション力15	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…鳴き声「わんわん きゃんきゃん うー	2名	安達理子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
18	平成24年12月1日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	24	中国(9)、フィリピン(3)、ベトナム(3) ペルー(2)、ドミニカ(2)、アメリカ(1) アルゼンチン(1)、ロシア(1)、台湾(1) パキスタン(1)	基礎日本語力16 コミュニケーション力16	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…猫「にゃんにゃん にゃーん ごろごろ(甘えたとき)	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
19	平成24年12月8日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	25	中国(8)、フィリピン(4)、ベトナム(3) ペルー(2)、ドミニカ(1)、アメリカ(1) アルゼンチン(1)、ロシア(1)、台湾(1) パキスタン(1)、ブラジル(2)	基礎日本語力17 コミュニケーション力17	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…むね「おむね(参加者の顔と比較)	2名	安達理子 高日哲	1名	妹背真理子	
20	平成24年12月15日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	20	中国(6)、フィリピン(2)、ベトナム(4) ドミニカ(2)、アメリカ(1) アルゼンチン(1)、ロシア(1) パキスタン(1)、ブラジル(2)	基礎日本語力18 コミュニケーション力18	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…ころがる「ころころ ころころ	2名	安達理子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
21	平成24年12月22日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	14	中国(2)、フィリピン(2)、ベトナム(3) ペルー(2)、アメリカ(1) ドミニカ(2)、ブラジル(2) パキスタン(1)	基礎日本語力19 コミュニケーション力19	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 交流ゲーム…目のつく漢字を調べよう	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
22	平成25年1月12日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	17	中国(4)、フィリピン(4)、ベトナム(4) ペルー(1)、アメリカ(1) ブラジル(2)、パキスタン(1)	基礎日本語力20 コミュニケーション力20	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…体 鼻が高い 目が高い	2名	佐屋麻利子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
23	平成25年2月2日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	15	中国(9)、フィリピン(1)、ベトナム(4) ロシア(1)	季節を知ろう(節分)	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…部分の語(紙芝居)と劇	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
24	平成25年2月9日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	11	中国(4)、ベトナム(4) ブラジル(2)、ロシア(1)	基礎日本語力21 コミュニケーション力21	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
25	平成25年2月16日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	8	中国(3)、ベトナム(2) ペルー(1)、アメリカ(1) 台湾(1)	基礎日本語力22 コミュニケーション力22	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム… 足が痛くなる 目が痛い	2名	安達理子 佐屋麻利子	2名	中村美香 妹背真理子	
26	平成25年2月23日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	10	中国(6)、ベトナム(1)、アメリカ(1) ブラジル(2)	基礎日本語力23 コミュニケーション力23	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…雨「ぽつぽつ ざーざー しとしと	2名	安達理子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
27	平成25年3月2日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	11	中国(9)、フィリピン(1)、ベトナム(2) アメリカ(1)、ロシア(1)、パキスタン(1)	季節を知ろう(雛祭り)	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 うきうきタイム…雛祭りの語(紙芝居)	2名	安達理子 高日哲	2名	中村美香 妹背真理子	
28	平成25年3月9日 10:00～12:00	2時間	相模女子大学	11	中国(9)、ベトナム(2) ドミニカ(1)、アルゼンチン(1) パキスタン(1)、台湾(1)	基礎日本語力24 コミュニケーション力24	日本語と学習進度に応じた個別指導 「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」みんなの日本語・文型練習帳「かんじたいすき」などを用いた学習 交流ゲーム…目のつく漢字を調べよう	3名	安達理子 佐屋麻利子 高日哲	1名	中村美香	

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



(10) 目標の達成状況・成果

中学校や高校に通う子どもたちが、学校と別の学びの場で学びあい、交流し合い、心の居場所として本教室は大きな役割を話していると考えられる。それは、学校との協働や市教委との連携で、学校を通して子どもたちがやってきて、本教室で学んだ日本語が学校の授業でも役立っているという教師側からの報告を受けるからである。高校段階で将来を考え、生きた実践的な日本語を学びたいという生徒も現れ、教材作成の実践も展開された。

(11) 改善点について

上記の目標の達成状況・成果を考えると、ますます学校との連携が重要になってくる。コーディネーター機能を高め、学校へのさらなる広報活動や支援者グループとのネットワークを強化していく必要がある。

## 6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

外国につながる中学生・高校生の教育支援の課題と方法

(2) 目的・目標

大学との連携において、日本語教育の人材育成・研修を学生ボランティアや地域のボランティア希望者向けに行う。本事業の日本語教室運営事業を生かし、対象となる子どもたちの状況や日本語教育の実践と課題を中心とした実践的な研修とする。

(3) 対象者

本事業の日本語教室でボランティアをしているまたはボランティアを希望する学生。地域のボランティア教室で日本語支援をしているボランティア。学校関係者など

(4) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 5 回)

(5) 使用した教材・リソース

(6) 受講者の総数 57 人

(出身・国籍別内訳 日本 54人、韓国 1人、中国 1人、フィンランド 1人)

(7) 受講者の募集方法

①県教育委員会及び各市教育委員会との連携により、教育委員会や中学校・高校にチラシ等を配布し、広報を依頼している。

②地域の国際交流組織にチラシ等を配布し、広報を依頼している。

## (8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	講座のテーマ	講師名	講座概要
団体名: 多文化共生教育ネットワークかながわ								
取組名: ②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施「外国につながる中学生・高校生の教育支援の課題と方法」								
実施期間: 平成24年9月29日～平成24年12月22日								
1	平成24年9月29日 13:00～16:00	3時間	相模女子大学	26人	日本(25人)韓国(1人)	子どもたちの現状と課題	高橋清樹(多文化共生教育ネットワークかながわ・理事) 角田淳(相模原青陵高校・総括教諭)	外国につながる子どもや若者が、学校や支援するNPO側からみてどうい状況なのかを具体的な例を用いて話し、どうい支援が必要なのか、グループワークする。
2	平成24年10月13日 13:00～16:00	3時間	相模女子大学	29人	日本(28人)韓国(1人)	教えてみようー教材分析	太田陽子(相模女子大学・専任講師)	本事業で作成中の、教材作成のプログラムを紹介し、教材の選び方や具体的な教材を例に使用に関する基本的な考え方をグループワークする。
3	平成24年10月27日 13:00～16:00	3時間	相模女子大学	26人	日本(25人)韓国(1人)	のぞいてみようー子どもの心	古賀和恵(早稲田大学日本語教育研究センター・講師)	学校における日本語教育の現状を学び、具体的な事例を通して子どもの思いを大切にしたい日本語教育のあり方、支援の仕方を考える。
4	平成24年11月24日 13:00～16:00	3時間	相模女子大学	33人	日本(30人)韓国(1人) 中国(1人)フィンランド(1人)	「私は、人間です!」ー「個人」を取り戻す日本語教育	川口義一(早稲田大学大学院・教授)	日本語教育の歴史を踏まえ、生きた日本語教育とは、日本語教育の目的を考える。学習者にとって生き生きとした日本語教育として「個人化」や対話重視の日本語教育を考える。
5	平成24年12月22日 13:00～16:00	3時間	相模女子大学	14人	日本(13人)韓国(1人)	考えてみようー教科と日本語教育	志村ゆかり(一橋大学国際教育センター・講師)	数学の文章題をもとに、教科指導面や日本語指導面からどうい教え方が考えられるかグループワークする。

## (9) 特徴的な授業風景

第5回 担当 志村ゆかり氏

テーマ: 考えてみよう! 教科と日本語教育

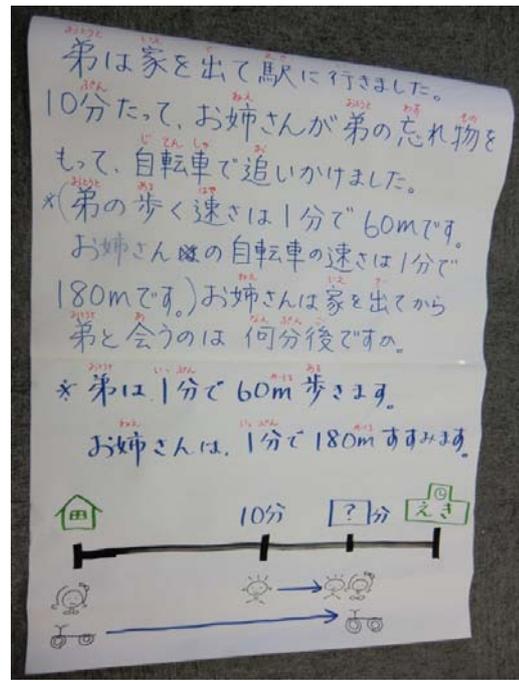
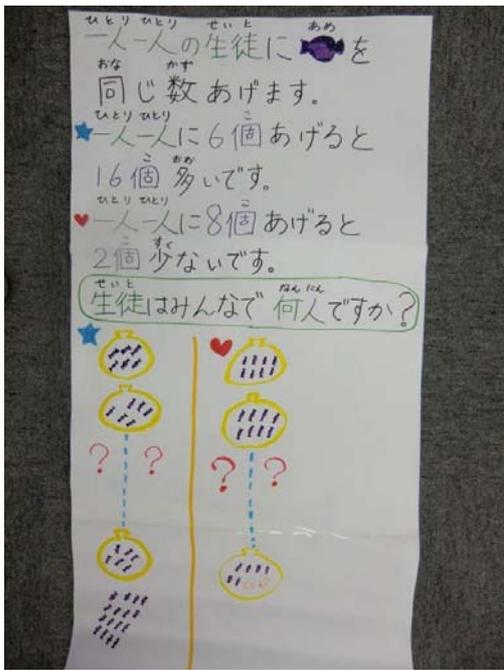
生活言語と学習言語の違いについて講師からお話しがあった。大人とは違う青少年の学習について、講師の経験、最新の研究データをパワーポイントを使い示した。数学を例に、気づきにくい特徴を挙げた。「かける」は多義語であり、日常で使う「かける」には多くの意味がある。洋服をかける。字が書ける。食器が欠ける…。数学で使うことばが日常的でなく、専門的に習う必要があるということだった。また、数学で使う専門語の紹介もあった。

文章題を取り上げ、JSLの青少年が間違いやすい問題を実例とともに紹介した。問題を解く手がかりとなる要因を五つ挙げた。また問題を解くときの障壁や工夫といったお話しもあった。

次に講義を元にワークショップを行った。実際に教科書に掲載されている問題をJSL青少年がわかりやすいようにグループごと模造紙に書き換えるという物だった。

(写真)最後に受講者が身につけたノウハウを元に国語の教科書にある文章の易しい日本語で書く試みも行われた。





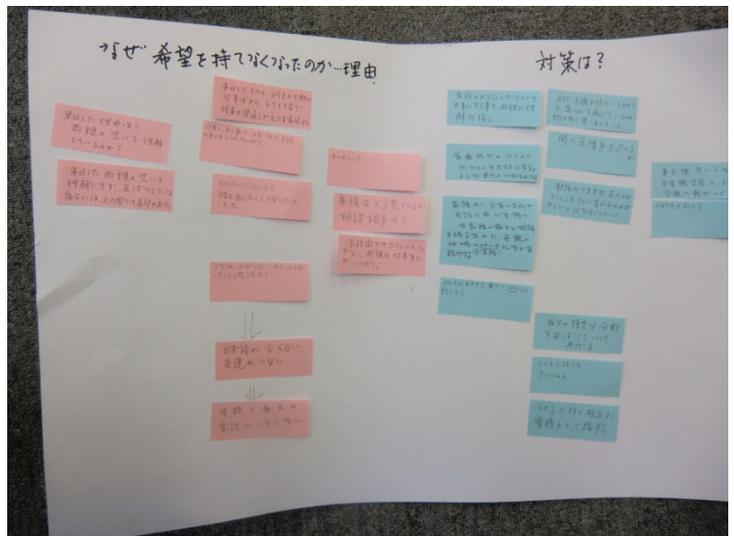
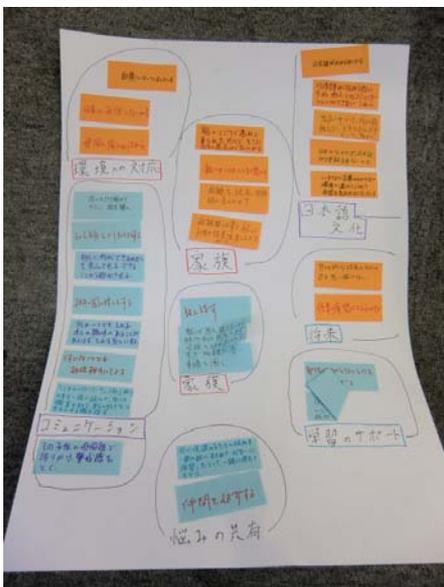
第3回 担当 古賀和恵氏

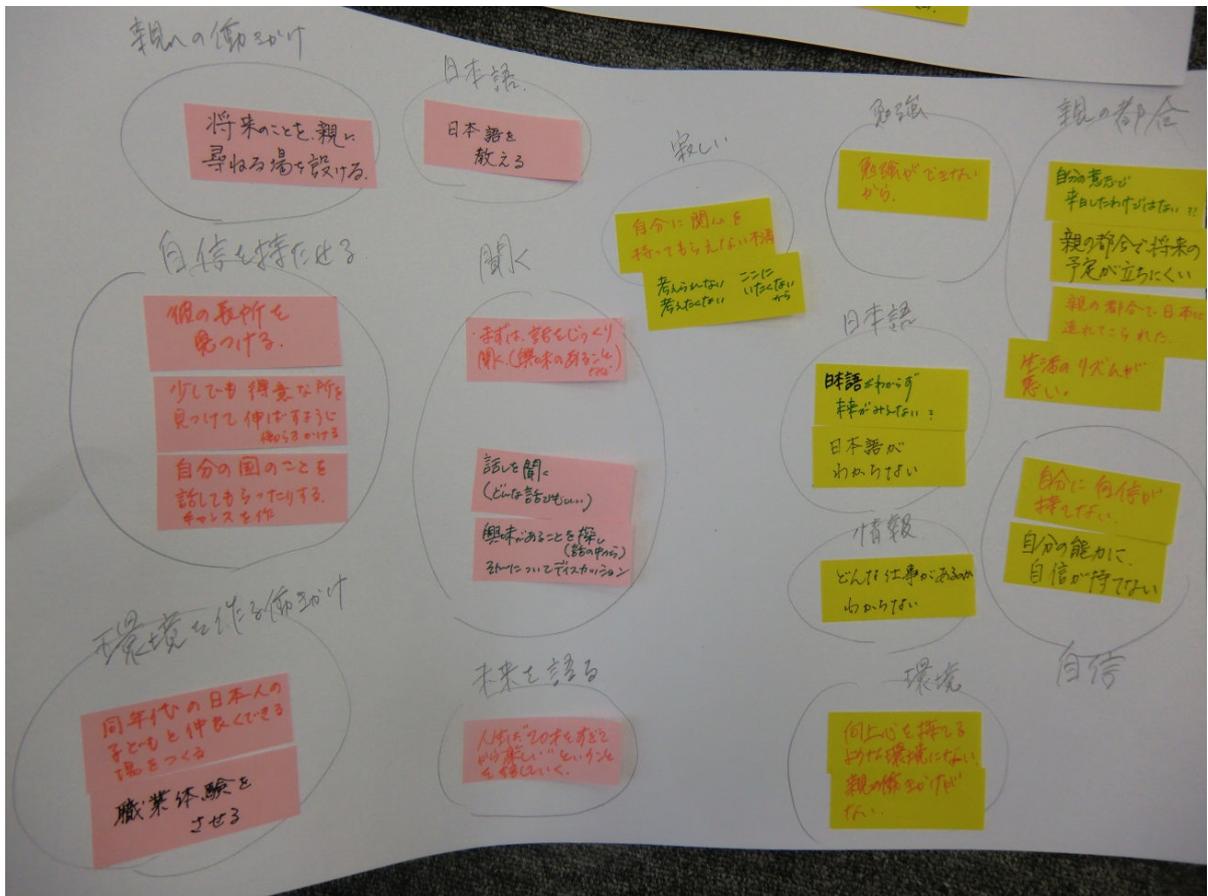
テーマ：のぞいてみよう！子どもの心

先ず外国に繋がる子どもたちの現状についてお話しがあった。JSL 青少年の高校進学を日本語支援の状況から語った。その際、講師が日本語指導を担当した JSL 大学生本人にゲストスピーカーとして登場してもらった。講師がゲストに質問していく形で話が進んだ。特に中学校時代、日本語が全くわからなくて生活・学習両面で苦労した話しには開場から驚きの声があがった。また開場からは大学生へ心の支えや勉強面、家族とのことなどたくさんの質問があがった。

次に日本語教室での事例についてお話しがあった。日本語の支援が全く受けられなかった中学生の話、将来に希望が持てなかった中学生の話など 5 例の紹介があった。ワークショップでは、なぜ将来に希望が持てなかったのか、そのような子どもに対して、自分ならどのような働きかけをするか。をグループごとに模造紙に書き、発表する形式をとった。(写真)

最後には日本にある韓国人学校の日本語クラスの事例紹介もあった。





## (10) 目標の達成状況・成果

### ・大学との連携

相模女子大学の全面的な協力のもと、会場設営・当日の研修まで滞りなく終了できた。相模女子大学の学生が多く参加したことから連携という目標は達成できたことと考える。

### ・日本語教育の人材育成・研修を学生ボランティアや地域のボランティア希望者向けに行う

タウンニュースでの募集、県教育委員会、各市教育委員会、さがみはら国際ラウンジでの紹介により地域のボランティアが多数来場した。このことから本研修対象となる人材の募集は成功したものとする。また上記のように相模原女子大学の学生が多く参加したことから学生ボランティアの募集も成功したものと言える。特に学生ボランティアは相模女子大学以外からも早稲田大学、東京工業大学、桜美林大学等からの参加者があった。

### ・本事業の日本語教室運営事業を生かし、対象となる子どもたちの状況や日本語教育の実践と課題を中心とした実践的な研修とする

日本語教室運営事業で本事業の対象となる子どもたちの日本語レベルや学習環境がさまざまであると確認した。その子どもたちのさまざまな日本語教育の課題解決を考えるべく第1回は高校の教員が子どもたちの状況を講義した。第2回は日本語教育の教え方という面に着目し研修を行った。第3回はJSLの大学生が自らの経験を日本語獲得という視点から話した。第4回は一人ひとりが異なる子どもたちに向けた日本語学習という内容を「個人化」という観点で研修を行った。第5回は生活場面や学習場面における日本語の違いや獲得の方法を子どもたちが実際に使用する数学の教科書の問題を優しく直すことで実践した。全5回を通して参加することで子どもたちが抱える日本語の課題を支援者が共有することが可能になるよう企画したが、参加者が最後に提出するアンケートに「とても参考になった」「よくわかった」等の声が多くあることから一定の成果があったと考えられる。また一方、全ての回でワークショップやグループディスカッションが設けられていて、参加者自らが実践できる講座となっている。参加者の発表からもそれぞれが持つ課題の確認や解決の一助となったことがわかる。

## (11) 改善点について

今回の研修を踏まえ次回への改善点を述べた場合、内容については各講師が創意工夫をしてくださり、参加者の多くから満足との声があるため特記する事項は見当たらない。また、企画時点での目的も達成できたと思う。一方、参加者のアンケートから「各研修日程の間隔が一部に集中していて参加しにくかった」等の意見があったことから次回は日程の間隔調整を可能な限り行いたい。また「もっとたくさん受けたかった」という参加者の声も多かったことから次回は回数等の実施体制を見直していきたい。

## 7. 日本語教育のための学習教材の作成

### (1) 教材名称

自立と社会参加のための日本語—高校生版—

## (2) 対象

外国につながる高校1年生～3年生のうち、日本語の初級学習内容、および、高校の教科の授業内容をおおむね理解していると判断された生徒。

## (3) 目的・目標

外国につながる高校生に対して、高校卒業後の生活を念頭に、自立と社会参加に向けた日本語能力の向上をめざす。特に、①必要な情報を自ら見つけ、伝えるリテラシー能力、②自身のコミュニケーション上の課題を発見する力、③将来設計について考える姿勢、④進学・就職を見据えた文章を「書く」力、の育成を目標とする。

## (4) 構成

第1課 ネットの時代！？（情報化社会について考える）

第2課 忙しい毎日（時間管理や生活の組み立てについて考える）

これ以降も、テーマを徐々に増やして展開していきたいと考えている。

各課の構成は、おおむね以下の通りである。課によって多少の差異が生じる。

1. 話してみましよう —— 各課のテーマについてのウォーミングアップ
2. 私のタイプって？ —— テーマを自分の問題としてとらえる
3. 調べてみましよう —— 必要な情報を自ら探し、伝える
4. ピックアップ —— 日本社会の仕組みに関するキーワードをとりあげる
5. 考えてみましよう —— コミュニケーション上の課題を考える。
6. 私の体験、友だちの体験 —— テーマについての様々な考え方に触れる。
7. 書いてみましよう —— まとまった字数の文章表現に挑戦する。
8. ことばコーナー —— 各課を通じて身に付けた表現をまとめる。
9. 虫めがね —— 言語生活における小さなトピックに注目する。
10. おまけ —— テーマに関する豆知識にクイズ風に触れる。

## (5) 使い方

5名程度のクラス授業をモデルケースとして作成しているが、支援者と学習者の1対1の学習でも使用できる。独学には向いていない。

使用法は、ページに沿ってタスクに答えていく形となっている。学習者・支援者ともに各ページの指示に従いながら意見を交換し合い、ともに考える中で、様々な語彙や表現に出会い、自らのコミュニケーションスタイルや将来設計について考えを深めていくスタイルである。各タスクには、特に決まった答えが設定されているわけではなく、また、決められた語彙や文法を練習するものでもない。学習者の興味とレベルに応じて学習を進めていけばよいものとなっている。

調べるタスクや、伝えるタスクが多く取り入れられているので、理想的には、学習者がスマートフォンやパソコン、タブレットなどを利用できる環境で使用（作業は日本語に限らず、得意な言語を駆使してかまわない）されることが望ましい。

教師が「教える」タイプの教材ではない。本教室は、大学生ボランティアと高校生が共に学び合う活動体制となっているため、この教材も、お互いに経験談などを持ち寄りながら、ともに「考える」タイプの教材として作られている。

## (6) 具体的な活用例

具体的な活用例として、①新聞記事の発表、②コミュニケーション場面の考察、③「私の体験・友だちの体験」の部分を紹介する。

### ①新聞記事の発表

日本国内のニュースや自分の「つながる国」のニュースへの関心を高めるべく、月に1度から2度、新聞記事の発表タスクを課す。調べ方とまとめ方は第1課の「調べてみよう」で練習をし、以後、各自で調べてきて発表、意見交換を行う。回を決めて学習者全員が記事を持ち寄るのでも、担当を決めて毎回1名ずつ順番に発表していくのでもよい。

- 1) インターネットや新聞を使って、その週の「気になるニュース」を各自で1つを見つける。この作業は、日本語でなくとも、各生徒の得意な言語を使って構わない。本教材では、それぞれの得意な言語は、各自の貴重なリソースであるという立場をとる。また、扱うニュースは、日本国内のものでも、「つながる国」のものでもよい。
- 2) そのニュースをタスクシートに従って、日本語でまとめる。まとめる内容は以下の項目である。
  - ・見出し（記事にあるものをそのまま利用）
  - ・ニュースの内容
  - ・なぜそのニュースを選んだのか
  - ・感想
- 3) クラスで、各自の選んできたニュースを発表する。聞く側は、やはりタスクシート（聞き取り用）にメモをとる。その後、そのニュースの背景となる事象について話し合ったり、お互いに質問や感想を述べ合ったりといった活動を行う。

「見出し」の日本語を取り出すことは、内容予測の力を向上させることにつながる。また、進学や就職ののち、レジюмеや報告書などをまとめる際の見出しのつけ方といった力にも発展していく。

「ニュースの内容」は、記事そのままを読み上げるのでは伝わらないことから、話し言葉と書き言葉の違いの意識化にも効果がある。「なぜその記事を選んだのか」「感想」は、クラスメートそれぞれの価値観に触れることにもなる。また、発表後の意見交換を通して、質問する力、自分の考えを伝える力を養う機会とする。こうした活動を通して、社会への関心を高めること、リテラシー能力を高めることをめざす。

新聞記事の発表というタスク自体は、日本語クラスではよく行われることであり、さして目新し

いことではないが、日本社会に関心を持たないまま、「つながる国」への関心も薄れていくことのある高校生も多いなか、社会の一員として自立していく上で特に必要な活動であると考え。

## ②コミュニケーション場面の考察

本教材には、「話してみよう…もしも1」「同…もしも2」といった、いわゆる「会話練習」のような形で、日常生活において遭遇しそうな場面を設定し、そこでのやりとりを考えるパートがある。もちろんここでのロールプレイのような練習を通して、敬語などの必要な語彙や表現を知ることが可能だが、このパートの狙いむしろ、日常生活における自分の、そして、周囲のコミュニケーションの様相そのものに対する意識化にある。そのため、同じ状況について、「友達・同性」「友達・異性」「目上」「後輩」「その他」というように相手を変えて考えるように組み、そこでの変化そのものを報告する欄を設けている。相手に応じたコミュニケーションのためにはどのような要素が関わることかを自ら考える「メタ認知力」を高めることが目的である。

- 1) 場面設定を確認する。
- 2) 「友達・同性」「友達・異性」「目上」「後輩」と相手が変わることで、どのような言い回しと会話の展開が想定されるかを話し合う。単に、敬語を使うといったことではなく、切り出し方、謝罪の有無、会話の終了方法など、いろいろな観点から考えることが重要となる。
- 3) 話し合ったことをもとに、表現上の工夫についてまとめつつ、日頃の自身のコミュニケーションスタイルと比較する。
- 4) そのほかにどのようなシチュエーションが起こり得るかを「その他」として話し合う。
- 5) 話し合ったことをもとに、各設定のロールプレイを行い、確認する。

## ③「私の体験、友だちの体験」の利用法

このパートは、各課のテーマに関するいくつかの意見を短い文章で載せている。男女差、年代差などを反映する様々な文体に触れることや、概要をざっととらえる読み方の練習、また、同様に自分の意見を書くこと、周囲の人物に聞いた話の内容をまとめること、などの活動を行うことを目的とする一方で、様々な年代、性別、国籍のリアルな意見を取り上げることにより、コミュニケーションの「適切さ」や進路選択の話題を扱う教材として、1つの価値観を押し付けてしまうことのないよう、物事のとらえ方は実に多様であることそのものを示すことがねらいである。

- 1) 教材に載っている短い文章をざっと読み、内容を捉える。
- 2) その意見についてどう思うかをクラスで話し合う。
- 3) 自分の考えも同様の短さで書く。
- 4) 身近な人物にも話を聞いてまとめ、クラスで紹介する。

## (7) 成果物の添付 添付資料参照

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的

神奈川県北部地域（相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市）において、学校、大学、外国人支援組織との協働連携により、定住する外国につながる若者（中学生、高校生）を対象とした日本語教育支援事業を行い、高校卒業後の進路選択や社会参加につながる支援を行う。

### (2) 目標の達成状況・事業の成果

教室運営事業については、日本に在住する外国につながる若者向けの日本語教室が少なく、学校との連携も難しい中、本教室の特徴である学校連携や教育委員会との連携を生かした、日本語教室が展開できた。地域からの要望やニーズの高さを強く感じた。日本語教育の実践としては、コーディネータや指導者が時間をかけてひとり一人の学習者の状況を元に個別指導を展開できた。学習者にとって年齢の近い学生ボランティアも良きお兄さん、お姉さんの役割を果たし、普段は質問しにくい分からない言葉についても、本教室では遠慮せず質問できる雰囲気があり、生きた学習の場となった。

研修講座では、地域で外国につながる子どもや若者の支援をしている方たちが広範囲から参加され、上記の教室運営と同様に地域からのニーズの高さを感じた。また、本教室への期待の高さも感じた。

教材作成については、すぐにでも活用できる実践的なものができたと自負している。実際に教室で中級者向けに教材利用ができ、改善しながら作成できたことも大きな成果として考えている。

### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

自立や社会参加に向けた青年期の若者向けの日本語教育の実践として、標準的なカリキュラム案を元に教材を作成し、本教室で実際に教材として用いた授業を展開した。その結果、学習者の反応や学びへの意欲が良好であったことから、教材としてもよりよいものが作成されたと考える。

### (4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

研修講座のアンケート(抜粋を添付)からも分かるとおり、本教室の地域からの期待やニーズは高い。地域の支援者からの紹介で本教室に来る生徒が多いことからそのニーズの高さが分かる。

研修講座に相模原や海老名といった周辺地域のみならず横浜、川崎、藤沢からも参加され、地域間の情報交換が行われたことも本教室の役割の一つを果たしていると考えられる。

### (5) 改善点、今後の課題について

本教室が対象としている中学校や高校の外国につながる子どもは地域や学校では、十分な支援が受けられる孤立したり、ドロップアウトしたりするケースも少なくない。そんな状態で本教室やってくる生徒も何ケースかあった。もっと早く本教室の存在を知っていればと言う声も多かった。外国につながる子どもや生徒向けの広報は口コミなど身近な支援者や信頼の置ける機関からの紹介が不可欠である。そういう点からも地域に信頼される場、ネットワークの拠点として本教室が位置づけられるように改善していきたい。

具体的には、コーディネーターが外に出かけて地域とネットワークをつくる仕組みを検討したい。

### (6) その他参考資料 研修講座の参加者アンケート(抜粋)を添付